



教育学部

准教授 飯野 直子さん (理科教育)

Iino Naoko

●プロフィール

- 1994年 鹿児島大学教育学部卒業
- 1996年 同大学院教育学研究科修士課程修了
同大工学部教務職員
- 2005年 同助手
- 2007年 同助教
熊本大学教育学部准教授

キュリー夫人の伝記を読み、科学者に憧れる

小学校入学前に鹿児島へ。幼い頃から生きものや自然の様々な現象に興味のある子どもで、小学生の頃にキュリー夫人の伝記を読み、科学者に憧れたといいます。

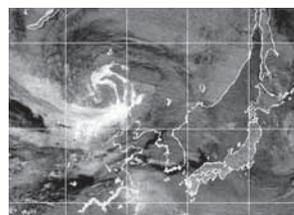
将来を考え始める頃から先生を目指すようになり、そして鹿児島大学教育学部に進学。学部時代、卒業研究が楽しくてもっと勉強したいと、修士課程へ。「運がよかったんです。修士課程修了時、工学部で教務職員の口があって採用になりました。所属研究室で新しいテーマに挑戦させてもらったり、自分の研究テーマを学生さんたちと一緒に研究したりすることができました。多くの先生方のおかげさまで2004年に博士(工学)を取得することができ、翌年には憧れていた研究職につくことができました」。2007年11月から熊本大学教育学部へ。2008年7月に研究室に学生が配属され、これからまた学生と一緒に研究ができるのがとても楽しみだといいます。

結婚後、鹿児島から熊本へ引っ越すとき、退職するしかないと考えたそうですが、当時の鹿児島大学機械工学科の学科長のアドバイスで土宇から新幹線通勤し、仕事を続けることができました。「女性が仕事を続けやすい環境を作っていただいた先輩方に心から感謝しています」と飯野さん。

九州大学の教授との共同研究も

飯野さんの専門は「広く括れば環境科学ですね」。『衛星リモートセンシングを使った環境解析』ということですが、現在は、九州大学の鶴野教授とともに、黄砂の予測精度を上げるための研究も始めています。衛星画像を使うと、中国内陸部の乾燥地帯で発生した黄砂が大気中を移動してくる様子を時系列で見ることができます。その情報をモデルに組み込むことによって黄砂予報の精度を上げることが可能になります。

その他、熊本大学教育学部で挑戦したい研究テーマはたくさんありますが、その中の一つとして、今後、学生さんたちと一緒に熊本のヒートアイランドを調べてみたいと思っています。



2007年3月31日1時のMTSAT熱赤外差画像(大陸上の渦状の白い部分が黄砂)

理科の教師は一人一芸

小学校でも大学でも、教員の「すごく楽しい」という態度は必ず子どもたちに伝わるもの。それまで、あまり興味もなかったことが、だんだん面白そうに見えてくるような経験。教育の持つ一つの可能性がそこにあるような気がします。

「理科の教師は一人一芸」は、学部時代の恩師の言葉で、今後、研究室のスローガンにしたいといいます。教育学部の学生は、幅広くいろいろなことを学ばなくてはなりません、卒業研究を楽しみ、そして極めましょう。そうすれば、別の分野や新しいテーマ、その他のいろいろなことにもうまく対応できるはず。

鹿児島大学工学部から熊本大学教育学部へ来られた飯野さんは、もうひとつの夢であった教育に関われることがとても嬉しいそうです。「現場の先生にはありませんでしたが、先生を目指す学生たちの教育に関わることが出来ることは、すごく幸せです。自分の研究も含め、これから学生と共に様々なことにチャレンジしていきたい。熊本の理科教育に、研究した全てを生かせるような方法を考え、学生と一緒に頑張っていきたい」と、抱負を語ってくださいました。

「理科って楽しい」を、ひとりでも多くの人たちに伝えていけたらと思う毎日です。

「理科って楽しい!」を伝えたくて。